

FGF-23

Fibroblast Growth Factor (線維芽細胞増殖因子23)

研究検査

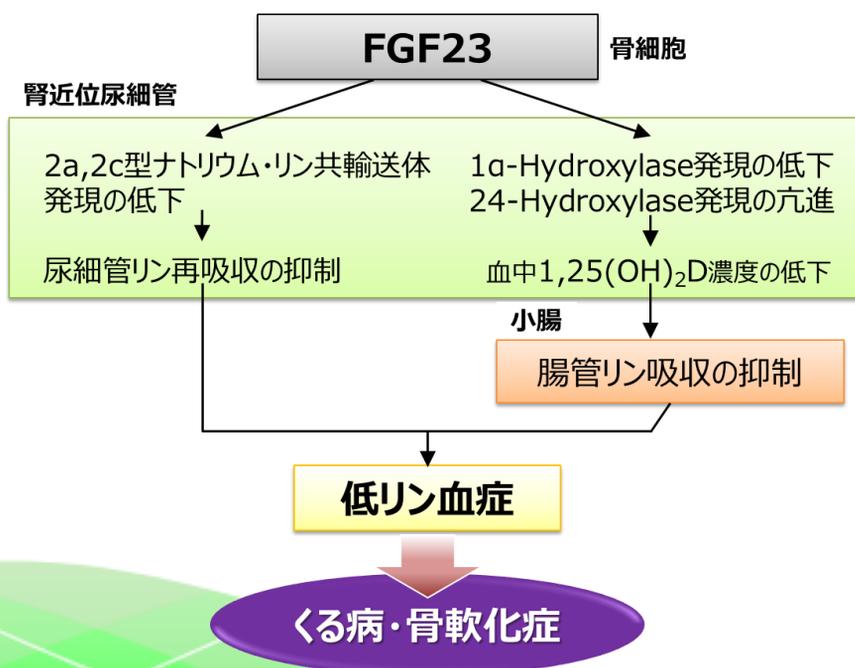
2018年4月現在

検査概要

検査法	EIA
検査項目	FGF-23 (項目コード : 27053)
材料	血清
必要量	0.3 mL
保存方法	凍結
参考基準値	22.9~67.0 pg/mL
定量下限値	10.0 pg/mL
最低出検数	1 件より
納期	所要日数 : 5~19日

FGF23の作用と低リン血症の発症機序

FGF23は、腎臓からのリン排泄促進、ビタミンD活性化の抑制、副甲状腺ホルモン (PTH) の分泌・合成抑制など多様な作用を有し、腎機能や骨疾患のほか心不全、鉄代謝、造血などに関与することが知られています。



FGF23について

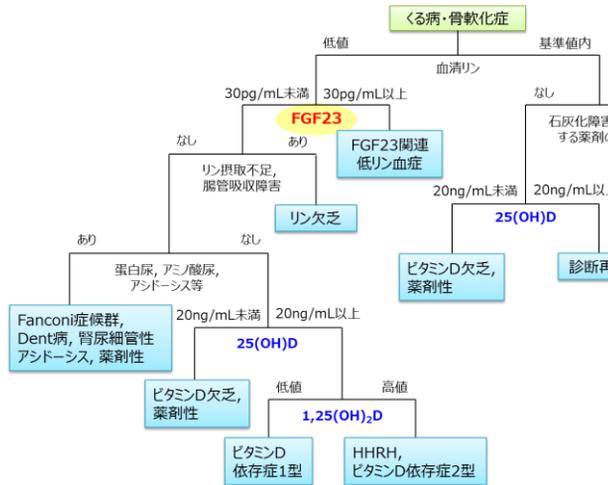
臨床的意義（測定意義）

FGF23は、251のアミノ酸からなる32kDaのタンパク質で、主に骨細胞から分泌されるホルモンです。腎臓からのリン排泄促進、ビタミンD活性化の抑制、副甲状腺ホルモン（PTH）の分泌や合成の抑制などの作用を有し、心不全、鉄代謝、造血などに関与しています。FGF23の異常が関係する疾患として、ビタミンD抵抗性くる病・骨軟化症やCKD（Chronic Kidney Disease）、末期腎不全、X連鎖性低リン血症などが報告されています。CKDでは、FGF23分泌亢進により二次性副甲状腺機能亢進症に至ることも知られており、FGF23の測定が早期治療介入に有用であると期待されています。

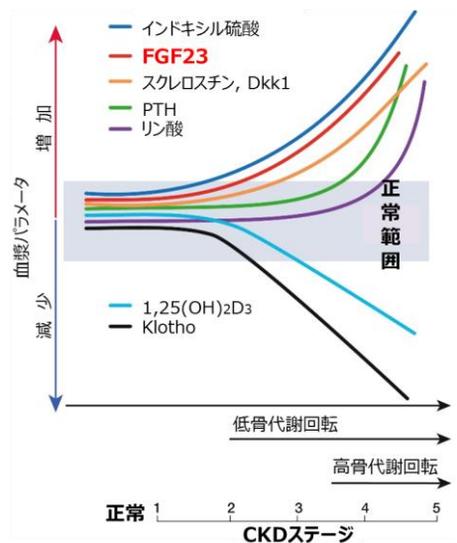
FGF23と病態

ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症（指定難病） （低リン血症性くる病・骨軟化症）

・くる病・骨軟化症の病因鑑別フローチャート¹⁾
（FGF23は保険適用外です）



FGF23は、リンやPTHと比較して慢性腎臓病（CKD）の初期から異常値を呈する²⁾



（参考文献）

- 1) 日本内分泌学会, 日本骨代謝学会：くる病・骨軟化症の診断マニュアル, 2015（一部改変）
- 2) Druke TB et al : Kidney Int 89 : 289-302, 2016

お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://www.kpsl.jp/>